

きょういく



さど

令和3年11月10日

第79号

佐渡市教育委員会

学校教育課

目標達成に向けて継続した取組を

学校教育課長 森 和人

多くの方が、MLBでの大谷翔平選手の活躍を毎日楽しみにしていたと思います。私もその一人であり、ある日のニュースで大変感動しました。

それは、大谷選手が四球で歩かされていた途中、落ちていたゴミを拾ってユニホームのポケットに入れたことです。私が感動した理由は、大谷選手が高校1年時に立てた目標達成に向けた取組を続けていたからです。

大谷選手は「ドラフト1位指名8球団」という目標を達成させるため、「体づくり」など8つの要素を挙げました。その中の2つに下図のように「運」「人間性」という要素を挙げ、それぞれ8つの行動目標を立てました。そこには、運を引き寄せるため「ゴミ拾い」という行動目標を立て、MLBで大活躍している現在でも、目標をレベルアップさせて継続しているということです。他の行動目標も、現在の大谷選手の姿から伺えるものばかりです。

感性	愛される人間	計画性	あいさつ	ゴミ拾い	部屋そうじ
思いやり	人間性	感謝	道具を大切に使う	運	審判さんへの態度
礼儀	信頼される人間	継続力	プラス思考	応援される人間になる	本を読む

大谷選手作成マンダラチャートの一部

各校では、教員評価制度に従い、進捗状況について管理職との面談を終えたことと思います。目標達成に向けては、改善を加えながらも継続的に取り組むことが大切です。

また、年度や学期のはじめには、児童生徒に目標を立てさせたいと思います。これについても、児童生徒に進捗状況を振り返らせ、改めて意識化を図るとよいでしょう。

将来の夢や目標は、人間形成の大きなエネルギーとなります。目を輝かせて将来の自分の姿を追い続ける子どもたちを育みたいものです。

管理訪問を終えて

管理主事 福井 晴人

本年度16校において管理主事訪問を実施することができました。ありがとうございました。

その際、施設・設備・備品等に関連し指導のあった内容について、これは先生方に知っておいていただきたい、という事項のうち主なものについてお伝えします。

- ① 刃物類は1つ1つに番号をつけるだけでなく、収納ケースや棚に全体の数が分かるように表示しておくこと。家庭科で使うピーラーも刃物になる。
 - ② 教卓の中には、刃物や危険物などを入れておかないこと。児童生徒が直接触れられないところにおく。
 - ③ マッチは、使用時に必要数（3～5本）だけを入れて配ること。
 - ④ 薬品台帳への記録は、その都度行う。
 - ⑤ 使用しない用具等は、廃棄する。また、必要以上にある用具等は、積極的に整理・処分する。
 - ⑥ 体育用具室内であっても、ロッカーなど転倒の危険があるものについては必ず転倒防止の固定をする。
 - ⑦ ピアノの下の机の固定をしっかりとす。上下2箇所止めるとよい。物理的に子どもが入れそうな空間を作らない。
 - ⑧ 窓の近くに椅子や机、物を置かない。物の上に乗って落下する恐れがある。
- 皆さんの学校ではどうでしょうか。上記以外にも、これを参考に、危険な箇所はないかチェックしてみてください。安心で安全な学校づくりに向けて、皆で取り組みましょう。



差別やいじめを見抜く目を育てよう

教育指導主事 庄山佳代子

コロナ感染者数が下火になり、非常事態宣言が全面的に解除されました。ワクチン接種をはじめとする日常生活の予防策が定着し、社会生活のあり方を検討・改善してきた努力が実を結んだことの表れとされています。

コロナ感染症とともに、人権にかかわる問題もクローズアップされました。感染症患者や医療従事者に対する偏見・差別です。何の落ち度もない人や善意の人に対する偏見や差別に対し、憤りを感じます。コロナ禍だけではありません。SNS等で人への誹謗・中傷が命にかかわる大きな問題になっています。これらは全て、あってはならないことです。

先日、「人権教育、同和教育研修会」において講師から次のようなご指導がありました。

- 人は落ち度も何もない人を、自分より上の人・下の人と見ることがある。
- 多数者が少数者を低く見る傾向もある。
- 人との関係を上下でなく、水平・平等の関係で見ると。そのために、自分の中の差別の心を見つめることが大切である。
- 差別を見抜く目を育てなければ差別はなくなる。いじめも同じである。

子どもたちが、水平・平等な友人関係を築き充実した学校生活を送るため、まずは大人である私たちが自分を見つめることからスタートし、自分の中の差別の心を見つけませんか。そして子どもたちに「一緒に差別の心をなくしていこう。」と語りかけてほしいと考えます。

「まずは試しに・・・」（学校のICT化）

指導主事 小田 俊裕

今年度も、多くの学校の授業を見る機会がありました。少し前まではほとんど見る事のなかった場面が当たり前のように授業の中で行われていました。

○生徒一人一人が数学の練習問題に取り組んでいる時に、1人の生徒がおもむろにイヤホンをつけてタブレット端末を見始めました。問題の解き方のヒントとなる解説動画を視聴しているのです。見終わった生徒はまた練習問題に取り組みます。もちろん解説動画ではなく、教科書を見て、ヒントを得る子どももいます。

○「では、今日の振り返りを記入してください。」の先生の声に、子どもたちは一斉にタブレット端末を取り出し振り返りを入力し始めます。キーボード入力が苦手な子どもはノートに記述し、それをタブレット端末で写真撮影したデータを保存しています。

GIGAスクール構想の一つである、一人一台タブレット端末が各校に整備され、半年が過ぎました。初めのうちはなかなか使用する機会を作れないという声を聞きましたが、先生方の尽力により、多くの教室で日常的に、それも個に応じて様々な使われ方がされるようになりました。効果的な使い方を各校内でも共有し、すべての学級で日常的に使われるように今後も積極的な使用を進めていただきたいと思います。

9月実施の総合教育センター主催「ICT活用研修」において、講師の椎井先生は、「活用の始めは『ラクで便利と思える機能から使ってみる』、『試しに使ってみる』『よかったら続けてみる』というスタンスからスタートする」とおっしゃっていました。「タブレットとかどうも苦手で…」という方も、まずは試しに使ってみましょう。もしかしたら今まで知らなかった便利さに気付くかもしれません。

令和3年度オリンピック・パラリンピック教育

11月1日（月）、2日（火）に、真野小学校においてオリンピック・パラリンピック教育が行われました。東京パラリンピックにおいて男子走り幅跳びで4位に入賞した山本 篤 選手と「探求の対話p4c（子どもの哲学）」を行ったり、佐渡市陸上競技場において陸上教室を行ったりしました。

真野中学校の生徒も参加して、「挑戦することの大切さ」や「障がいをもつ人とのかかわり」について、じっくり考える素晴らしい機会となりました。

